[dõ:k]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21－4 オーデンビル

3F/ Siege : Oden Building 21-4 Higashi-Marunouchi Tsu JAPON ☎0592 (26) 3159

Nº 011 le 20 Novembre 1989 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

ガイドブック〈MIE JAPON〉が完成

喜田さんの「ことしの夢」みのる

三重県における日仏交流に何か具体的に役立つものをと、本会創立直後から多くの会員によって取り組まれてきた、フランス語観光ガイドブック＜MIE JAPON＞がこのほどついに完成しました。この冊子は県発行の英語のガイドブックを仏訳したもので翻訳と編集には、会員の喜田紘美さんを中心に２０名近い会員が参加、フランス人の協力も得ての「大事業」でした。最初は印刷の費用のメドも立っていませんでしたがさいわい喜田さんが、ポーラ化粧品の「ことしの夢」という「奨楽金」に応募して当選、その２５万円を柱に実現することができました。

三重県に５０冊を寄贈、会員（会費納入者）にも一部ずつお送りします。

残りは５００円以上のカンパでおわけしますので、ぜひ広く役立ててください。

申し込み先　津市下弁財町津興3035　喜田紘美（☎0592-26-8088）

BICENTENAIRE記念・最後の事業

フランス名画祭をお楽しみください

津シネマ・フレンズ主催、三重日仏協会後援によるフランス映画名画祭を１２月２３日（土・祝）津市の教育文化会館で開催します。『ギャルソン』、『フランスの思い出』の二本立て。（詳しくは同封のチラシ参照。）

ぜひとも お出かけください。

会員は、本人・５００円（同封のチケット持参で、当日現金払い）に優待。

また前売り券を９００円でおわけします。お近くの運営委員まで。

会員のページ

私のパリ・１１時間

7月17日 朝 9:00　パリ、私はホテルのロビーで友達を待つ。私が初めてフランスの地に降りた時のこと、プラットホームで知った顔のフランス人を見つけた。我が友、ノエルとパトリスだ。予告なしの出迎えに荷物も投げ出して彼らの胸に飛び込んだ。あれから8年たった今日、彼らに再会する。

おそいな、9:08 アッ来た!(やっぱりこの夫婦も中年のなかまに入ったかな。)

「ミユキ、遅くなってごめん。車が混んでいたんだ。さあ、これからどうする」

「そうね、私　新しいパリと古いパリが見たいわ。」「よし、まず私達の車へ。日本車だよ、マツダの。」案内されて乗った車は確かに日本車だったが日本では見られないようなポンコツ（失礼!）左ヘッドライトあたりが大きくへこんでいる。それもずっと前にぶつけたものらしい。車検も無し、走る道具としては上等、かな。

「まずはどこへ行こうか。」「私、ルーブルへ行ったことがないから・・」「OK!」

「わあ、これが新しくできたピラミッドなの?ガラスばりの。」「僕はこれ、なかなか気に入っているよ。」「ねえ、どうしてこんなピラミッドを中庭に作ったの?」「うん、いい質問だ。これはルーブルに入るための入り口なんだよ。」「!?」

私達は地下室と、私の希望で常に日本人が取り巻いているミロのビーナスとモナリザとサモトラケのニケだけ見て外に出た。すでにピラミッドの周りは入場を待つ長蛇の列、なるほど。ピラミッドのまわりの噴水が陽の光を浴びてにじを作っていた。「キレイデス。」私は ノエルとパトリスが日本で連発した言葉をお返しした。

「さあ、次はどこ?」「新オペラ座」「OK!」バスチーユ広場の前の近代建築の新オペラ座は一部未完成。この建物の中にカギが一本展示してあった。これが200年前自由の扉を開けた監獄のカギ？！

「ミユキ、おなかすかない？ここらでレストランをさがそう。」　「シェリー、マレーへ行きましょう。古くて新しい街よ。」

私達はレ・アルのブテック街をぬけ、レストランのたち並ぶ静かな路地に入った。よさそうな店をさがし日よけの張り出したテラスに腰を降ろした。小エビのサラダ、サーモン、ロゼワイン、レモンシャーベットが私の胃におさまった。水もごくごく飲んだ。腹をさすって見上げるテントの上をすずめの黒い影がちょんちょん飛んで遊び、テーブルの下では太った猫がサーモンの皮をねだりにすり寄って来る。ほろ酔いかげんの私をパトリスが自慢のニコンのカメラでパシャッと撮った。

「さあて、お次ぎはどこへ行きましょう。」「私、昨晩　バトームッシュウに乗ってエッフェル塔を見たの。100ａｎｓのイルミネーションがすごかった。登りたいわあ。」 300ｍ余りを支える４本の堅ろうな脚、その１本にそってエレベータ

バスチーユ広場の一角に新しく建てられた第二オペラ劇場

米澤みゆき　（津市在住）

ーが斜めに上がって行く。100年前に建ったなんて信じられる?

ここからパリが一望できる。「遠くにサクレクールの丘、向こうにがい旋門、近くで金色に光っているのはアンヴァリッドの屋根。この下のシャイヨー宮のずっと向こうにパトリスの勤め先のビルがあるわ。」どれだけ眺めていても飽きないパリ。"J'aime PARIS! Chouette! Magnifique!"ごめんネ、これだけしか言えなくて。ホントはもっといっぱいしゃべりたのだけれど・・・「僕達、パリに住んでいながらパリ観光したことがないから楽しいよ。」

「これから僕達の家にミユキを招待するよ。」ボンコツマツダはパリの地下道路を走り抜け郊外への出口へ。そのころから車が増えてきた。夕方のラッシュ、バカンスに向かう車、そして200年祭厳戒体制の特殊任務を終えた若き兵達のトラックetc.日差しは18時といっても真昼間のようなカンカン照り。非常に暑い！ノエルとパトリスも昨日南仏のバカンスから戻ったばかりの日焼け顔を増々赤くしている。情け容赦のない太陽に我々の車のフロントから白煙が出始めた。まずいぞ、と思った途端、湯気がパーッと上がってついにオダブツ。降りて車を路肩に寄せるはめになってしまった。向かいのカフェにとび込んでパトリスは必死に電話。が、営業時間が過ぎているためかどのサービスセンターもすぐにとんで来てはもらえない。「今すぐ日本に電話したら？！」と私。結局、今日のところはここに車を乗り捨てる事に。「とんだハプニングで残念だがミユキを我が家に案内することはできなくなった。ミユキ、これからどうしたい？」「20時までにホテルに帰らなければならないからパリに戻るしか・・」「で、どこ行こう？」「うーん、シャンゼリゼ。」地下鉄で一気にがい旋門まで戻った3人は人混みの中をぶらぶらとシャンゼリゼの大通りを下った。ここはまだあの200年記念祭の余韻を多分に残している。トリコロールグッズを売る若者から記念Tシャツ(飛ぶ鳥のデザインにBicentenaire de la Révolution Française のロゴ入り）を買ってもらった。実は今日のノエルとパトリス、そろってこのTシャツを着ている。それを見て私がねだったのだ。「先に日本に送って今日、3人で着るつもりだったのよ。」とやさしいノエル。

20:00　とうとうお別れの時がきてしまった。ホテルの前。「今日はすごく楽しかったわ。」「今度は必ず我が家に連れて行くよ。」「ありがとう。」笑ったはずの私の目からどっと涙があふれて止まらない・・・ノエルの胸に顔を押し付けた。「またすぐ会えるよね、きっと。」「Oui、もちろん。いつでもパリにいらっしゃい！」

Miyuki Yonezawa

盛況の〈BICENTENAIRE〉記念事業

André Tolletさんを囲む会

トレ夫妻（両側）と遠藤教授

第二大戦中、ナチスドイツのフランス占領に抵抗した＜レジスタンスの闘士＞であり、現在はフランス・レジスタンス博物館の館長であるアンドレ・トレ氏を招いての「トレさんを囲む会」が、９月２１日、津市の都ホテルで開かれ、一般聴衆も含めて約５０人が参加しました。

トレさんは１９１３年生まれの高齢にもかかわらず大変お元気で、名古屋出身のつや子夫人とともに今回来日されたのを機会に、特に津市にもお寄りいただいたもの。

当日は、愛知淑徳短大の遠藤教授に通訳と進行をお願いし、貴重なスライドを交えてのお話でした。その中でトレさんは、フランス大革命以後の諸革命とレジスタンス運動とのつながりに触れられ、フランス人の自由、独立を守る闘いの伝統を強調されました。またレジスタンス時代、捕えられアウシュビッツ送り寸前に脱獄したという生々しい体験談などもあり、聴衆を感動させました。

質問も活発に出され、軍備、アパルトヘイト、レジスタンスを題材にした映画や文学などに話題は及び、時間のたつのを忘れさせました。

またトレ氏の著書『地下道』のサインセールは、即時売り切れとなりました。

Quatuor Ravel演奏会

フランスの新進気鋭の音楽家たちによる＜ラヴェル弦楽四重奏団＞の演奏会が９月８日、四日市市のムーシケ・ホールで開かれました。室内楽用のこじんまりしたホールですが、満員の盛況でした。

同四重奏団は、最近フランスの国際コンクールで入賞し、世界の一流を目指して勉強中であり、また当夜の演奏会が日本での最後のスケジュールだっただけに大変熱のはいった名演奏で、特にお得意のラヴェルの演奏は聴衆に大きな感銘を与えました。鳴り止まぬ拍手に応えて、ウェーベルンの「緩やかな楽章」、モーツァルトのニ短調の四重奏からメヌエットをアンコール演奏し、満場陶酔の内に幕を閉じました。

終了後、四日市市内の「ア・タント」で日仏協会主催の歓迎レセプションを開いて和やかに歓談し、フランスの若い音楽家たちとの交流を深めました。

お願い　会費未納の方はすぐ納入を！

８９年度会費の納入を忘れておられる会員が、まだかなりの数にのぼっています。完納の予定で年間予算を組んでおりますので、このままですと財政はピンチになりかねません。とくに会員への＜MIE JAPON＞の送付や、イベント入場料の割引など出費を伴う活動に困難を生じています。もう一度お確かめの上、ぜひ早目に納入していただきますようお願いいたします。　（事務局）